

2019年度

岐阜県青少年赤十字

研究推進モ二夕一校活動事例集



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岐阜県支部

目 次

はじめに

(小学校の部)

1	岐阜市立鶉小学校	1
2	羽島市立足近小学校	2
3	笠松町立笠松小学校	3
4	海津市立下多度小学校	4
5	関市立桜ヶ丘小学校	5
6	美濃市立美濃小学校	6
7	美濃市立藍見小学校	7
8	郡上市立大中小学校	8
9	八百津町立錦津小学校	9
10	恵那市立明智小学校	10

(中学校の部)

11	岐阜市立岩野田中学校	11
12	岐阜市立三輪中学校	12
13	各務原市立緑陽中学校	13
14	大垣市立星和中学校	14
15	揖斐川町立谷汲中学校	15
16	恵那市立恵那西中学校	16
17	恵那市立岩邑中学校	17
18	中津川市立蛭川中学校	18

(高等学校の部)

19	高山西高等学校	19
----	---------	----

(特別支援学校の部)

20	岐阜希望が丘特別支援学校	20
----	--------------	----

◆ 表紙の書（左） 各務原市立那加中学校 土屋 美結さん

＜赤十字フェアー 岐阜県知事賞受賞作品＞

◆ 表紙の書（右） 各務原市立中央中学校 徳田 和さん

＜赤十字フェアー 岐阜県議会議長賞作品＞

は じ め に

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの学校現場においては、上記の実践目標と重なる内容の学校経営や教育実践が進められていると思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させてもらおうと共に、子どもたちに青少年赤十字で大切にしていることを身に付けてもらえることを目的に、例年、研究推進モニター校の募集を行い、数多くの応募校の中から20校を指定し支援させていただいています。

今回は、研究推進モニター校においては、健康・安全、奉仕、国際理解・親善といった内容のいずれかと関わらせながら、各校の創意・工夫を生かした研究実践を推進していただきました。

また、子どもたちが活動する際には「気づき」、「考え」、「実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取り組みにも努めていただきました。

本事例集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身につけた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神を持ち続け、様々な場で活躍してくれることを願っています。

この事例集が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいたモニター校の校長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

令和2年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

(小学校の部) 1 岐阜市立鶉小学校

学 校 名	岐阜市立鶉小学校 (校長 河井 信幸)
活動の種類・単位	講師を迎えて「命の授業」を行い、4～6年生児童が命の重みについて考えた。自殺予防の意味でも重要な内容を示す授業となった。
教育課程上の位置付け	学級活動「命の大切さ」と保健「生活習慣病と癌」

1 活動テーマ

人と人のかかわりを大切にする活動を通して、今自分にできることを考え、積極的に発信する。

2 主な活動内容

【「命の授業」の目的】

- ・近年コミュニケーション力の不足でよりよい友だち関係が築けないために自分の命を縮めたり、正しい生活習慣が身につかず持病を患ったり、癌に侵されたりして、尊い命を亡くしてしまう子どもたちが増えてきている。自分の命の重みを認識して大切にすると同時に、今の自分ができることを見直し、精一杯生きていくことを子どもたちに考えさせる。
- ・自分一人では生きられないことをよく理解し、自分の周りには自分を支えてくれる人がたくさんいることや、何よりも家族や学校の友だち、教師に見守られ育てられていることを再認識する。

【「命の授業」の流れ】

- ・4～6年生の学級で保健の授業の折り、「癌」という病気のおそろしさを事前に学習しておいた。
- ・4～6年生の子どもたちが体育館に集まり、講師の鈴木中人さんのお話を聞いた。鈴木さんはお子さんを癌で亡くされてとても辛い経験をされたが、その辛い経験を基にいのちのバトンタッチをテーマにして、いのちの輝き、家族の絆、生きる幸せなどを全国に発信してみえる。
- ・鈴木中人さんの「命の授業」を受けて、学級活動を行い、自分の思いをノートにまとめた。
(子どもたちのノートは補充資料として提出)



▲ 命の授業を行う鈴木中人さん



▲ 感想を発表する6年生男子

子供たちに付いた力	赤十字の「みんなが幸せになるために」という願いと、本校の児童会の「みんなでつくるほっとなうずら」のめあてがぴったり当てはまり、人とかかわりを大切にする思いや命の大切さを重視する心が育ってきた。
効果	児童会が積極的にキャンペーン活動を行い、各学級に個々のよさを認め広げることにより力を入れたり、あいさつ活動を活性化していくための取組を推進したりと、今自分たちにできることは何かを具体的に示していくことができた。
今後の方向	学校内の活動以外に、学校外の地域の中でも人とかかわりを大切にする思いや命の大切さを重視する活動を考えていけるとよい。

2 羽島市立足近小学校

学 校 名	羽島市立足近小学校（校長 阿部 達也）
活動の種類・単位	健康安全活動を、全校児童で取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動（命を守る訓練）、総合的な学習の時間、その他（給食時間・休み時間）

1 活動テーマ

気づき、考え、実行する児童の育成

2 主な活動内容

（1）歯科保健衛生活動

- ①「羽島3周みがき」の実施：給食終了時に、3分間計を用いて「羽島3周みがき」というみがき方を用いて歯みがきを行う。
- ②フッ化物洗口の実施：保護者の了解を得て、全校の95%の児童が金曜日の朝の活動で行っている。
- ③歯垢検査の実施：前期・後期で1回ずつ、昼休みの時間を利用して実施。不十分な者は再度検査をし、丁寧な歯みがきへの指導。
- ④学校歯科医による年2回の検診：春と秋の2回を実施。
- ⑤歯みがき教室の実施：家庭教育学級として1年生の児童・保護者に、6月に学校歯科医から歯みがきの重要性の説明と子供を交えて、親子で正しい歯みがきの仕方について学ぶ機会をもつ。



▲ 3分間計を用いながら歯みがきをする児童

（2）防災教育

①命を守る訓練の実施（反省点を次に生かす）

第1回（地震・火災）※実施日・実施時間を予告

訓練内容：第1次対応（身を守る訓練）、第2次対応（運動場へ避難、雨天時：体育館）
通報訓練、（消火訓練）※液状化現象等を考慮した避難場所の複数化

第2回（地震・火災）※実施日のみ予告

訓練内容：第1次対応（身を守る訓練）、第2次対応（運動場へ避難、雨天時：体育館）
伝達訓練（放送機器の使用不可を想定）

※大型拡声器の使用、階段脇の教室に、小型拡声器を設置

第3回（地震）※実施日時を予告しない

（ア）業間休み

訓練内容：第1次対応（身を守る訓練）、第2次対応（運動場へ避難）、救助訓練

※椅子を置き、避難路を狭小化、ラスの落下と散乱を想定

（イ）昼休み ※予告なしの同日2回目の実施

訓練内容：第1次対応（身を守る訓練）のみを行うショート訓練

②第6学年総合的な学習の時間：地域在住の防災士をゲストティーチャーとして防災教室を実施

③中学校区連携防災活動（1中学校、3小学校が防災教育をテーマにし、共通実践内容を実践）

- ・教職員全員が名札と笛を常時携帯
- ・図書館に「防災コーナー」を設置
- ・10月28日（羽島中校区防災の日）での防災食の試食（6年生）
- ・12月：給食時の「お昼の放送」での6年生が調べたことを全校に「防災一口メモ」として放送



▲ 教室入り口の伝達用拡声器

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔を清潔に保つことを通して、自己を見つめ自らの健康を自ら維持しようとする力 ・災害発生時において、状況を判断して、自ら考え行動する力
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間計を用いて歯みがきをすることによって、簡単に済ませずに、時間まで丁寧にみがこうとする姿が見られた。 ・緊急地震速報を用いて、時間と場を変えてショート訓練を実施したことにより、その場の状況をもとに、どのように身を守るとよいか判断する力の育成に結び付いた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果がでる「3周みがき」のさらなる徹底。 ・ショート訓練の一層の実施により、さらに判断力と行動力の育成に努める。

3 笠松町立笠松小学校

学 校 名	笠松町立笠松小学校 (校長 澤田 辰男)
活動の種類・単位	「命と健康」をテーマとして、全校の児童と地域とが連携した取組
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・児童会活動・学校行事

1 活動テーマ

「みんなのしあわせを考えて 豊かな心でねばり強くやりぬく子」 ～自立・共生・貢献～

2 主な活動内容

明治5年開校の歴史をもつ本校は、基礎・基本の着実な定着を図る教科指導とともに、道徳教育の実践に重点を置き、学校経営を進めてきている。子どもたちの心を耕す道徳教育の実践である3つのじまん【挨拶・掃除・生き物の世話】の継続的活動を通じ、命を大切に考え、他者を思いやる温かな心情や自主性が育ちつつある。本モニター校の指定を受け、以下の3つの取組を中心に実践を進めた。

(1)「赤十字活動」を推進するためのJRC委員会の取組

- ・ J R C 委員会による全校児童への活動の紹介
- ・ アルミ缶やペットボトルキャップの回収活動
- ・ 『まごころ贈呈式』での町福祉施設への貢献活動
- ・ 老人福祉施設へのふれあい訪問活動



▲ キックオフの会

(2)自分の「命と健康」を守るための取組

- ・ 様々な非常変災時の状況を想定した『命を守る訓練』の実施
- ・ 朝の「けんこうタイム」での保健・健康指導
- ・ 歯科衛生士による学年ごとの歯磨き指導
- ・ 給食後の音楽で行う全校一斉3分間歯みがき活動
- ・ 感染症予防のための「手洗い・うがい」継続取組



▲ まごころ贈呈

▲ 命を守る訓練

(3)「ふるさと笠松」地域の人々をつなげるための取組

- ・ 地域の伝統文化指導者から学ぶ全校児童の箏体験
- ・ 育てた花鉢を地域の方々へ贈る活動
＜5年生は小菊を贈る・6年生は葉牡丹を贈る＞
- ・ 地域の保育所へのふれあい訪問活動
- ・ クリーンタイムやたてわり掃除での地域の方との協働
- ・ 地域の高齢者に運動会の招待状を送り、来校された高齢者とともに玉入れ競技を行った。



▲ 歯みがき指導

▲ 葉牡丹を贈る

▲ 保育所訪問

子供たちに付いた力	老人福祉施設や保育所へのふれあい訪問を通して、相手の方の気持ちを考え、他を思いやる心が育まれた。また、『命を守る訓練』や健康タイムの取組を通して、自らの体や健康に目を向け、自分の命を大切にしていこうとする心情が培われた。
効果	自分たちが保護者や地域の方に呼びかけ、多くの方々に回収活動に協力していただけたことが、身近な人や世界の子どもたちのために役立てられることにつながったという事実を、「まごころ贈呈式(キックオフの会)」を通して、実感することができた。
今後の方向	「誰かのために、自分ができることを考えて、やりぬく。」このことが、笠松小の子どもたちの様々な活動に浸透しつつある。今後も、人はお互いに支え合いながら生きていることや、自らの命と健康を大切に生きていくことの意義を、体験を通して学び続けてほしい。

4 海津市立下多度小学校

学 校 名	海津市立 下多度小学校 (校長 片田 裕子)
活動の種類・単位	「ふるさと学習」を中心として、地域社会に働きかける活動を行った。
教育課程上の位置付け	生活科、総合的な学習の時間、特別活動、特別の教科道徳

1 活動テーマ

下多度地域の良さを見つけて、発信しよう。

2 主な活動内容

(1) ふるさと学習

「ふるさと学習」では、校区の自然や歴史、文化の良さと、それらを守り継ぐ人々の願いを受け止めて、自分達にできる地域参加を考え、情報発信や地域への働きかけなどを実行している。

○系統性のある6年間の学び

各学年の系統性を明らかにし、6年生の出口の活動を見越して各学年の学習を進めた。6年生では、「下多度プロデュース」というテーマのもと学習している。1～5年生で学んだ「ふるさと」の良さを下級生や保護者に伝えるだけでなく、ガイドマップにまとめて看板を作製し、地域に発信している。

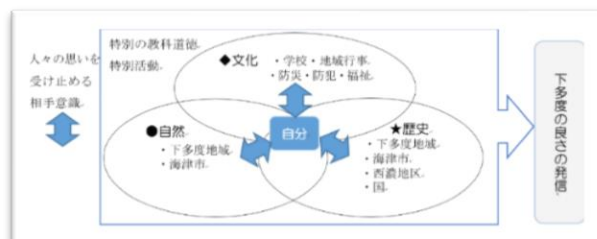


▲ ガイドマップ作りに向けて、
学習のまとめをする6年生

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
高齢者、園児との交流		自然	防災	歴史・文化	発信

○相手意識のある学び

「ふるさと」の良さを実感していくと、そこには必ず人々の思いがある。相手意識をもち、人々の思いを受け止めて、自分の生活と関わらせながら思いを深めている。



▲ 「ひがな花まつり」実行委員長の思いを聞く3年生

(2) 地域の園児や高齢者との交流活動

1・2年生は園児と梅狩りを行い、6年生は地域の高齢者施設を訪問して交流をした。これらの体験を通して、自分も地域の一員であることを実感している。

(3) エコキャップ運動

4年生が中心となり、全校や地域からペットボトルキャップを回収し、世界の子ども達にワクチンを届ける社会貢献活動に参加している。今年も約35000個のキャップを寄付した。

子供たちに 付いた力	「ふるさと」の良さを実感し、発信することを通して、「ふるさと」に誇りがもてるようになってきた。また、地域のことを自分事として捉える姿が増えた。
効果	12月に全校で行った「キックオフの会」の振り返りでは、学んできた「ふるさと」の良さを生き生きと語る姿があり、誇りをもつ姿が増えた。 1・2月に行った「ふるさと学習」の発表会では、天然記念物のハリヨが100年後も生きて欲しいという願いを込めて、ハリヨの環境保護を呼びかける紙芝居を作り、それを保護者や下級生に伝える姿もあった。このように「ふるさと」の良さを実感した上で、自分達が地域でできることを考えて、行動することができた。
今後の方向	引き続き地域の方との交流を深め、「ふるさと学習」を中心に、実践を通して気付きを生み出し、積極的な地域参加や、学んだことを自分の生活に生かすことができる子ども達を育てていく。

5 関市立桜ヶ丘小学校

学 校 名	関市立桜ヶ丘小学校 (校長 岩見 浩二)
活動の種類・単位	奉仕 その他(福祉)・学年
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

福祉について知ろう

～地域の福祉団体、福祉施設と連携した福祉教育活動を通して～

2 主な活動内容

- (1) 高齢者宅訪問
 - ・一人暮らしの高齢者宅を福祉団体の方とともに、お手紙や行事への招待状等を持参し訪問。
 - ・年間3回(9月、2月、3月)実施。
- (2) 高齢者疑似体験
 - ・6月、高齢者疑似体験装具を装着して、日常生活動作の難しさを疑似的に体験することを通して、加齢による身体的な変化を知り、高齢者の心情や介助の方法について理解。
- (3) ブックトーク
 - ・市立図書館司書さんによる福祉をテーマとしたブックトークを実施。
- (4) 敬老会出演
 - ・9月、地域のふれあいセンターで開催される敬老会に出演し合唱を披露。
- (5) 手話出前講座の受講
 - ・11月、市福祉部局主催の手話出前講座を受講。
- (6) 車椅子バスケ体験
 - ・12月、車椅子バスケの活動をしている方の講話を聞き、実際に車椅子バスケを体験。
- (7) 認知症サポーター養成講座受講
 - ・1月、市包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座を受講。
- (8) まとめの会
 - ・1年間福祉について体験、学習したことをまとめ、学年で交流。



▲ 高齢者疑似体験の様子



▲ 高齢者宅訪問の様子

子供たちに付いた力	ア 福祉に対する関心・意欲・態度 イ 情報活用能力 ウ 問題解決能力 エ 表現力 オ 総合的な思考力・判断力
効果	福祉教育活動(講話・体験・交流・表現等)を通して、とりわけ4年生児童の「福祉に対する関心・意欲・態度」「総合的な思考力・判断力」の育成につながった。
今後の方向	講話・体験・交流・表現等の活動に対して、児童がいっそう当事者意識をもって活動し、その過程で、総合的な思考力・判断力、問題解決能力が発揮できるよう、継続して活動の工夫改善を行う。

6 美濃市立美濃小学校

学 校 名	美濃市立美濃小学校 (校長 山口 敏則)
活動の種類・単位	誰もが健康で幸せに暮らせるよう考えて生活できる。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

誰もが幸せに暮らせる地域・社会づくりに進んで取り組む力を養う。

2 主な活動内容

(1) 歯科指導

1 学期には、歯科衛生士による歯科指導を全学年に実施した。自分のみがき具合をチェックし、学年段階による歯磨きの仕方を学び、歯みがきの大切さを学んだ。また、むし歯や歯周病の原因や生活習慣の大切さを知った。

PTA 研修会で歯科医師が保護者に説明し、10月からフッ化物洗口を毎週実施した。

委員会活動では、毎日給食後に歯みがき音楽を流して、全校一斉に歯みがきを実施している。学校と保護者、歯医者、歯科衛生士が連携をとって歯みがき指導に当たった。

(2) 障がい者福祉施設との交流

毎年、5年生が校区にある障がい者福祉施設を訪問し交流を行っている。1学期に、5年生の児童が施設を訪問し、自分たちにできないか考えた。そして、車いすを使用している人の気持ちを考えるために、福祉協議会の方に来ていただき、福祉についての話をいただいたり、車いすの補助の仕方を学んだりした。その後、施設の人たちに幸せな時間を過ごしてもらうために、再び訪問して歌を歌ったり、にわか(校区内の伝統芸能)を演じたり、組体操を行ったりした。最後に、クリスマスリースをプレゼントした。

(3) 車いすバスケット体験

下半身がマヒして車いすで生活している人々が、バスケットを通して必死に頑張っている話を聞き、実際に競技用の車いすに乗ってバスケットを行った。



▲ 車いす体験



▲ 施設訪問



▲ 車いすバスケット

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科指導を通して、子どもや保護者の健康に対する意識が高まってきた。 ・ 障がい者との交流を行ったことで、障害者の気持ちを考えられるようになり、障がいをもっていながら強く生きる生き方を感じることができた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯の健康を学びながら、生活習慣の大切さを感じることができた。 ・ 障がいをもっている人たちの生き方から、自分の生き方に目を向けられるようになってきた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯の健康を自分で考え実践できる子をめざす。 ・ 人の気持ちを考え、強く生きていく子をめざす。

7 美濃市立藍見小学校

学 校 名	美濃市立藍見小学校 (校長 西脇 陽介)
活動の種類・単位	「福祉」をテーマとして、全学年が地域と関わる活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、特別活動、クラブ

1 活動テーマ

相手の気持ちを考え、思いやりの心で関わり合って、人のために尽くそうとする子の育成

2 主な活動内容

◎地域の特別養護老人ホームの方々と交流しよう <全学年 総合的な学習の時間等>

月 日	時 間	参加児童	活動内容
5/23 (木)	9:50~11:10	6年生①	歌・ゲームなど
5/30 (木)	9:50~11:10	4年生	劇・歌など
6/6 (木)	10:00~11:00	6年生②	福祉学習
6/20 (木)	15:20~15:50	環境委員会	読み聞かせなど
6/27 (木)	9:50~11:10	2年生	歌・ゲームなど
7/4 (木)	9:50~11:10	6年生③	手遊び歌・ゲームなど
夏休み	ボランティア	参加したい児童	掃除・風船バレーなど
10/10 (木)	9:50~11:10	3年生	歌・ゲームなど
10/24 (木)	9:50~11:10	1年生	歌・ゲームなど
10/31 (木)	9:50~11:10	5年生	手遊び歌・ゲームなど

◎感謝の花を贈ろう

<家族へ> … (1、2年生 特別活動)

自分で育てた花を、6月の授業参観で、家族の方へ贈った。

<地域の方々へ> … (5、6年生 特別活動)

5、6年生が育てた花を、9月の運動会の際に、地域の方々に贈った。

◎地域講師の方々と一緒に学ぼう

<野菜づくり> … (1、2年生 生活科)

地域講師の方々に、サツマイモやトウモロコシ、枝豆などの植え方・育て方を教えていただいた。

<大正琴・お花・読み聞かせ> … (4、5、6年生 クラブ)

クラブの時間に地域の方々に講師として招き、専門的な知識や技能を教えていただいた。



▲ 育てた花を、運動会の来賓の方へ手渡し



▲ 地域講師の方と一緒にサツマイモの苗植え

子供たちに付いた力	弱い立場の方の気持ちを考えたり、その人たちのために自分にできることを考えたりする力、地域の方々と関わり合う力等を伸ばすことができた。
効果	「地域の方々」や「保護者」と関わることによって、身近な人のために尽くそうとする心を育むとともに、身近な人に感謝する心を育むことができた。
今後の方向	今後も、地域の方々と関わり合う場を、様々な形で設定することができるよう、上記の取組を継続するとともに、発達段階に合わせた関わりを工夫する。

8 郡上市立大中小学校

学 校 名	郡上市立大中小学校（校長 櫻井 文夫）
活動の種類・単位	命を大切にする活動を、地域との連携を大切して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

生命・健康を大切にし、ふるさとを大切にしようとする心を育てる

2 主な活動内容

（1）生命を大切にする活動…防災トレーニング、着衣水泳

「自分の命は自分で守る」を合言葉に、防災教育の充実を図った。5月・6月は「地震災害への備え」、7月は「豪雨災害」、11月は「災害への備え」、12月は「雪害」の内容を学習した。その際には、日本赤十字社発行『青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのち ひろめるぼうさい』を参考にして、学習計画を立てた。特に平成30年度には、この地域は集中豪雨に見舞われ、避難指示が出されるなどの事態になった。その経験から、災害に対する対応の仕方について、意欲的に学ぶ姿が見られた。

また、地域講師に依頼し、着衣水泳を行った。着衣の状態や靴を履いた状態で水の中の動きを確かめるなど、「自分の命は自分で守る」という意識を高めることができた。



▲ 生命を大切にする活動の様子

（2）伝統文化の継承…大神楽（5年生）

校区内には、地域で昔から行われている祭りがあり、「大神楽」が奉納されている。その伝統を継承しようと、4～6年生の総合的な学習の時間の学習計画に位置付けられている。地域の方を講師に招き、「大神楽」の歴史、演奏の仕方、舞の仕方などを教えていただいている。区民運動会や、町内において「少年文化のつどい」という行事が催され、発表の場となっている。



▲ 大神楽の様子

（3）豊かな自然や地域の人とのふれあい（4・5年生）

総合的な学習の時間では、4年生の学習を「川との関わり」、5年生の学習を「山との関わり」から構成している。具体的には、4年生では「カワゲラウォッチング」「鮎の友釣り体験」、5年生では「天然記念物 石徹白大杉の見学」「植樹体験」などを実施している。学習を進めていく中で、子どもたちは、地域の自然の豊かさと尊さに気づいていった。また、学習の講師として、地域の方にお世話になり、生活の知恵と共に地域の人たちのやさしさに接することができ、ふるさとへの愛着の高まりを見ることができた。

子供たちに付いた力	防災教育では具体的な状況を想定して自分の取るべき行動について考えること、ふるさと教育では地域のよさを感じることができた。
効果	「命を守る訓練」等、意欲的に取り組むことができるようになった。住んでいる地域のよさを認め、愛着をもつようになった。
今後の方向	学校教育と地域のコミュニティとの連携を深め、ふるさと教育の充実を図りたい。

9 八百津町立錦津小学校

学 校 名	八百津町立錦津小学校 (校長 榎間 誠)
活動の種類・単位	錦津地区に住む人々とのつながりを作ったり、福祉活動に取り組んだりした。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、教科(生活科)

1 活動テーマ

人・地域とのふれあいを通して、思いやりや助け合いの心を育てる

2 主な活動内容

(1)障がいのある方やボランティア活動をしていらっしゃる方との交流

4年生児童が、総合的な学習の時間において、「福祉」に関わる方との交流から、自分にどんなことができるかを考えた。

- ・車いす体験を通して、車いすで生活するときの困難さと介助するとき心がけることを学んだ。その後、車いすバスケットの選手と交流した。車いすバスケットを体験して、その難しさや楽しさを感じた。また、選手のお話から、自分でできることを増やしていく前向きな考え方を学ぶことができた。
- ・八百津町の地域包括センターの方や、民生児童委員の方に協力をいただき、「認知症サポーター養成講座」を受けた。認知症の方とどのように関わるとよいかを教えていただいた。



▲ 車いすバスケットの選手と交流

(2)校区の保育園児との交流

1年生児童が、年間3回、年長児を招いて、小学校生活を紹介したり、自分たちで作ったおもちゃで遊んだりして交流した。

5年生児童が、総合的な学習の時間において、年間2回、年長児と交流した。1回目は、5年生が保育園を訪問して、ペアで交流したり、全員で遊んだりした。2回目は、年長児が小学校に来て交流した。この活動を通して、5年生は、最高学年への意識を高めることができた。



▲ 保育園児との交流

(3)地域行事への参加

6年生児童が、総合的な学習の時間において、講師の方から学んだ「和太鼓」を地域行事の夏祭りや公民館開館5周年記念式典で地域の方に披露した。地域の行事は休日に行われるが、ほとんどの児童が参加し、地域との交流ができることに、誇りを感じている。



▲ 和太鼓の演奏

子供たちに付いた力	地域の方、保育園児との交流活動によって、思いやりや助け合う行動が増え、思いやりをもった接し方や言葉のかけ方が生まれた。これらの活動を位置付けることで、子どもたちに相手意識が芽生えたり、高まったりした。
効果	地域の方や保育園児との交流を行った相手と関わったことで、学校内や地域であいさつを交わしたり、会話が生まれたりするなど、温かい関係が生まれた。
今後の方向	今後も地域との連携を一層図り、温かい人間関係を構築するために自らができることを考え行動できる児童を、今回の活動を継続しながら育てていきたい。

10 恵那市立明智小学校

学 校 名	恵那市立明智小学校（校長 高橋 光弘）
活動の種類・単位	全校児童と地域とが連携して防災教育や交流学习に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	生活科、総合的な学習の時間

1 活動テーマ

ふるさと明智のたくましい担い手を育む

～自他の生命を守るための知識や行動力を身に付けるための防災教育の展開～

2 主な活動内容

（1）命を守る訓練や全児童、全教職員の地域総合防災訓練への参加

校区には大雨による土砂災害の危険が想定される地域が多く存在する。しかし、児童や保護者及び教職員の危機意識は高いとは言えない。そこで、実際に大雨警報等が発表された場合は、意図的に水害に対する注意喚起をメールで全家庭に情報発信してきた。

明智町総合防災訓練が9月1日の午前中に実施された。本校では、土曜授業として親子で防災について学ぶ場として位置付けた。まず各地域で参集訓練を行い、その後小学校に集合して体験的に学んだ。参加団体は、明智町防災委員会、市防災リーダー、市消防団明智分団、市女性防火クラブ明智支部、市日赤奉仕団明智分団、市社会福祉協議会、恵那警察署、自衛隊の8つであった。

体験コーナーは、①避難所開設机上訓練 ②段ボールベッド・間仕切り ③非常用グッズ展示 ④防災クイズ ⑤空き缶コンロ訓練 ⑥情報伝達訓練 ⑦防災倉庫機材確認訓練 ⑧非常食試食体験 ⑨電気自動車の活用展示 ⑩土のう作り訓練 ⑪初期消火訓練（水消火器） ⑫エアテント展示 ⑬自衛隊パネル・車両展示⑭給水車訓練があり、児童は全てのコーナーで体験的に学んだ。

児童にとって地域の各防災機関の取組のおかげで安全な生活が守られていることに気付く貴重な学びの場になった。

（2）ふるさと学習発表会・ふれあいコンサート（佐藤梓コンサート）

学年毎に生活科や総合的な学習の時間に学習してきたふるさと学習の発表会を実施した。

また、本校と吉田小学校とが統合したときに、記念の歌を作詞・作曲していただいた佐藤梓氏をお招きしてコンサートを実施した。

当日は、地域への愛着を実感できるようにと願って、保護者や地域の方々も招いて楽しむ事ができた。



▲ シェイクアウト訓練



▲ 地域総合防災訓練



▲ 合唱を披露する姿

子供たちに付いた力	<p>広く浅くではあるが、基本的な防災についての知識や行動の仕方を身につけることができた。</p> <p>地域の方とのふれあいを通して、地域に対する愛着がもてた。</p>
効果	<p>地域総合防災訓練に親子で参加することを通して、身近な消防団等の地域の方々のおかげで守られていることを実感し、防災への意識を高めることができた。</p>
今後の方向	<p>今後も防災教育を進めると共に、地域の方々に感謝し、自他の生命を尊重できる児童の育成を推進していく。</p>

学 校 名	岐阜市立岩野田中学校 (校長 樋田 光代)
活動の種類・単位	地域との関わりを通して、防災学習・奉仕活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

夢や希望の実現のために 自ら動く 生徒の育成
～気づき、考え、実行する取り組みを通して～

2 主な活動内容

1 防災学習（総合的な学習の時間 1 年）

- ・地域の防災マップ作成
- ・「体育館が避難所になったら」
仮設トイレ・パーテーション設営体験
非常食体験
ワークショップ
- ・シェイクアウトから始める命を守る訓練



▲ 地域の方と共に簡易トイレ設営

2 地域清掃活動（10月5日実施 全校生徒）

- ・地域の公園等の清掃活動（親子奉仕活動）



▲ 地域清掃活動

3 保育体験活動（家庭科 保育体験 3 年）

- ・校区にある保育園にて、園児との交流活動

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習「地域の防災マップづくり」や「地域清掃活動」を通して、自分たちが住む地域について、さらに深く目を向け、自分たちができる事を考える事ができた。 ・「体育館が避難所になったら」の体験学習を通して、防災を自分の事ととらえて考え・行動に移そうとする意識が高まった。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・岩野田中学校コミュニティスクール(支援推進委員会)の協力を得て体験学習を行うことで、地域の方との関わりが高まった。 ・防災への意識や、地域を様々な角度から再認識する意識が高まる。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災学習」や「地域清掃活動」は、地域との関わりを大切にしながら今後も継続していく。 ・「防災学習」については、地域の特性を考慮した防災について学習していきたい。

12 岐阜市立三輪中学校

学 校 名	岐阜市立三輪中学校（校長 大塚 正久）
活動の種類・単位	安全・健康に関わり、地域と連携して防災・減災活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

志をもって誠実に生きる ～防災・減災について、気づき、挑み、創る～

本校区は平成16年に台風被害を受けた。そうした非常事態に際して中学生としてできることを考えるため、平成18年に地域の水防団の方を招き、講話をいただく機会を得た。それをきっかけに有志生徒が『三輪中水防団』として地域の水防団演習に参加するようになった。平成19年から岐阜市水防連合演習に毎年参加し、平成29年度には国土交通大臣より中学校として初めて水防功労者表彰を受けた。

三輪中水防団の活動を伝統として大切にしながら、防災・減災教育を通して、自分や地域の方々の安全と健康を守ろうとする意識を高めるための教育活動を展開している。

2 主な活動内容

4月：三輪中水防団の団員募集

例年、年度当初に三輪中水防団の団員を募集する。今年度は全校生徒365名中120名が団員として申し出た。

5月：地域の水防団を招き、土嚢作りやなどについて体験学習

水防団の方の指導により土嚢の作り方や団体行動の仕方について学ぶことができた。

6月：岐阜市水防連合演習に参加

長良川河畔において開催された岐阜市水防連合演習に参加。リーダー生徒の指示のもと、協同してすばやく的確に行動して事態に当たる姿に大きな評価を得ることができた。

7月：HUG訓練実施

2年生を対象に、講師を招いてHUG訓練を実施した。刻々と変化する状況に対応する難しさと同時に、協同して対応する大切さを学ぶことができた。

9月：校区の小学校での水防団演習に参加

12月：学校行事『ディスカバリー三輪』

多数の外部講師を招き講座を開設する『ディスカバリー三輪』を実施。今年度も水防団の方を招き地域の防災・減災対策について学ぶことができた。



▲ 水防団の方に指導を受けながら土嚢作り



▲ HUG訓練

子供たちに付いた力	水害を中心とした防災・減災対策に関わって土嚢作りや避難所の運営方法などの具体的な知識や技能を身に付けた。またそれらの学習を通して、非常時に中学生としてできることを積極的に行い、地域に貢献しようとする意識を高めることができた。
効果	避難所運営訓練を通して、様々な事情を抱える避難者に対して体育館の割り当てや生活ルールをどのようにしたらよいのかについて、知識を深めることができた。
今後の方向	防災・減災学習をさらに推進する。校内だけでなく地域の防災訓練との連携を図り、現実に即した訓練や学習を充実させて、一人一人の対応力と意識を高める。

13 各務原市立緑陽中学校

学 校 名	各務原市立緑陽中学校（校長 磯谷浩二）
活動の種類・単位	地域に暮らす独居高齢者のお宅を訪問し、年間を通して手紙や花を届ける活動
教育課程上の位置付け	コミュニティースクール（ボランティア活動）

1 活動テーマ

校区で一人暮らしをされている高齢者の方々に手紙や花を届ける活動を通して、地域とのつながりを互いに感じたり、相手の立場を尊重したり、思いやりの大切さに気づく心を育てる。

2 主な活動内容

- 6月 生徒会執行部が「フラワーエンジェル活動」の案内を出し、全校生徒に参加を募集した。緑陽中学校伝統のボランティア活動とあり、**98%の生徒が自主的に参加を申し込んだ。**
- 7月 地区ごとに1年生～3年生の混合メンバーで、訪問担当家庭を決め、各グループで集まり自己紹介等手紙の作成を行った。
- 8月 7月に作成した手紙と体育大会の案内状を持って「第1回フラワーエンジェル」の訪問を行った。
- 11月 合唱交流会の案内状と、フラワーエンジェル訪問日時のお知らせを作成し郵送した。
- 12月 クリスマスカードを作成し、一人一人手紙を書き準備を行い、12月20日（金）に各家庭へ訪問活動をした。



▲メッセージカードを記入している様子



▲花と手紙を渡す様子

子供たちに付いた力	地域の高齢者の方々が毎年楽しみにされている、このフラワーエンジェルの活動に今年度も参加したことで、活動が続けることの意義や、やりがいを感じて実感することができていた。実際に手紙を送ったり高齢者の方と話したり、花を渡したりした時の相手の喜びが、自身の喜びとしても感じるようになっていた。人とつながることの大切さ、自身の必要性を改めて感じることで、自己肯定感や自己有用感が高まった。
効果	12月の訪問後、たくさん的高齢者の方々が生徒や学校にお礼の手紙を書いてくださり、それらを放送や掲示で紹介したところ、「また来年も参加したい！」「これからも地域と関わっていききたい！」と願いをもつ生徒が増えた。
今後の方向	来年度はボランティア活動ではなく、生徒会主催の緑陽中学校伝統行事として、活動の幅を広げ、独居高齢者だけでなく、地域の福祉施設や見守り隊の皆様にも日頃の感謝を伝えたりつながりをもったりしたいと考えている。

1 4 大垣市立星和中学校

学 校 名	大垣市立星和中学校（校長 児玉 努）
活動の種類・単位	全校生徒による福祉活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

- ・総合的な学習の時間に、「福祉」について学習する。
 - 1 年生：認知症サポーター講習の受講や福祉施設での交流活動を通して「福祉を知る」
 - 2 年生：福祉施設や公共施設、企業の職場体験学習を通して「福祉を学ぶ」
 - 3 年生：福祉で学んだことを実践に移す活動を通して「福祉を行う」
- ・オレンジ（福祉）委員会が中心となり、再生資源回収やボランティア活動等を推進する。

2 主な活動内容

（1）総合的な学習の時間「オレンジ」

1 年生では福祉施設訪問、2 年生では職場体験学習、3 年生では「子どもに対する福祉」「子をもつ親に対する福祉」「高齢者に対する福祉」「ユニバーサルデザイン開発」「パラリンピック競技を広めよう」「大垣を美しく（清掃）」「安心な街づくり」の 7 つのテーマ別の福祉実践を行った。3 年間の福祉学習を通して、自分たち中学生にも、誰かのためにできることがたくさんあることを知った。誰かのために何かをすることは、相手だけでなく自分の喜びにもつながると気付いた。



（1）3 年生「福祉実践」
保育園で「幼児の苦手な食べ物克服メニュー」を保護者に配布する様子

（2）オレンジ（福祉）委員会を中心としたボランティア活動

登校ごみ拾いや登校後に行く朝ボラ、アルミ缶、スチール缶、コンタクトレンズ空ケースなどの再生資源回収、1 円 5 円募金活動などに取り組んだ。これらの活動は、オレンジ（福祉）委員会の生徒が中心となって企画したり運営したりしている。この活動を通して、生徒が自ら世界の恵まれない子どもたちや地域の人々のために活動することの大切さを学んだ。



（2）朝ボラ
有志の生徒が草を抜く様子

（3）福祉集会

交通事故による後遺症を乗り越え、願いの実現に向かって弛まない努力を積み重ねてみえる車いす卓球選手の渡邊剛さんの講演を聞いた。渡邊さんの生き方に触れることを通して、困難を乗り越えながら自己実現に向かってひたむきに歩むことの大切さを実感することができた。「今の自分が明日の自分を、明日の自分が未来の自分をつくる」という話から、自分の生き方について考えることができた。

子供たちに付いた力	自分たち中学生にできることは何かを考え、実践する力が身に付いた。
効果	誰かのために何かをすることは、相手だけではなく自分の喜びにもつながることを学び、普段の学校生活の中でも相手の気持ちを尊重した言動ができるようになってきた。
今後の方向	今後も「ぬくもりの街・星和」を目指して、生徒が主体的に参加し、達成感を味わうことができる活動を行っていきたい。

15 谷汲中学校

学 校 名	揖斐川町立谷汲中学校（校長 長井 克義）
活動の種類・単位	奉仕活動に全校生徒と地域とで連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

お互いの良さを認め合い、思いやりあふれる活動の創造

2 主な活動内容

（1）地域貢献・ボランティア活動

谷汲地区は比較的高齢な住民の割合が多く、様々な活動を行う上で、中学生の貢献を必要としている。そこで、生徒会の生活委員会や環境委員会を中心に、地域でのボランティア活動に積極的に参加してきた。谷汲地区の年間に募集される行事は多いが、生徒同士で声を掛け合い、意識を高めていく中で、どのボランティア活動にも多くの生徒が参加することができた。

5月：揖斐川流域クリーン大作戦
7月：たにぐみ幼稚園夏祭り
8月：みんな揃ってラジオ体操
スポレク祭
親子奉仕活動
10月：ふれあい運動会
11月：地域環境美化活動
公民館まつり
いびがわマラソン

▲ 年間のボランティア活動例



▲ たにぐみ幼稚園夏祭りの様子

（2）ひびきあいの木

「ひびきあいの木」は、「谷汲中学校人権宣言」の「挨拶」「傾聴」「言動」「環境」の4つのキーワードについて、1日の中で気付いたことを書き、貼りだすことで、互いの良さについて認め合う活動の一つである。この活動は1年間を通して行い、毎日お互いの良さを知り、自分の成長につなげていく活動になっている。本年度は生徒会スローガン「一日一笑」のもと、互いの輝く笑顔をたたえる活動も同時に行った。「ひびきあいの木」は生徒のよく通る廊下に常に掲示されており、生徒たち自身が自分の足跡を確認できる掲示となっている。

子供たちに付いた力	地域の活性化に貢献するボランティア活動の経験を通して、自分たちで周りの人のために何ができるか考え、率先して動く「主体性」や地域の人や学校の仲間とともに活動し、意見を出し合う「連帯性」が育まれた。「ひびきあいの木」活動を通して、互いを認め合い、より高い理想をもって自分を振り返ることができた。
効果	全校生徒の大半がボランティアに参加し、積極的な地域貢献ができた。
今後の方向	本年度の活動を継続し、生徒たちが自ら考え、行動することで、学校や地域にとって、よりよい活動を創造し、伝統を引き継ぎ、守る意識を養っていく。

16 恵那市立恵那西中学校

学 校 名	恵那市立恵那西中学校（校長 岡田 庄二）
活動の種類・単位	生徒が自助・共助の意識を高める活動（全校・地域）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・特別活動

1 活動テーマ

自助・共助の意識を高めるとともに、地域に貢献する生徒の育成

2 主な活動内容

（1）防災教育の実施

①「防災の日」の取組

令和元年9月1日の防災の日には、恵那市全体の取組として、自治会ごとの参集訓練や、地区ごとの防災訓練に全校生徒が参加した。図上DIG訓練、避難所用ベットや簡易トイレの組み立て体験、消火訓練、防災倉庫の点検等を行った。地域住民や小学生等と一緒に活動することで、地域防災の担い手として、自助・共助の意識を高める指導を行っている。



▲ DIG 訓練

②命を守る訓練

火災・地震・不審者進入を想定した全校訓練を行っている。特に不審者対応訓練では、教員による事前の研修から、課題を明らかにし全校訓練に生かしている。恵那警察署の署員による不審者侵入の模擬対応を行い、避難の訓練を行った。また、令和元年6月18日、11月5日には、「全国瞬時警報システム(Jアラート)」を通じた緊急地震速報の配信訓練に合わせ、対応行動訓練を実施。

（2）自助・共助の意識につながる学習

中学2年生の社会科（地理的分野）の「自然災害と防災への取り組み」の授業で、「大規模災害に対する国や近隣都道府県・近隣市区町村、自衛隊、日本赤十字社が連携した公的機関の支援ネットワークが東日本大震災以降構築されただけでなく、各家庭において災害への備えが進むなど公助と自助の考えが広まったこと」を理解する学習を行った。加えて、ボランティアや自治体、地域住民で防災活動に協力する共助の考えが多くの地域で根付いたことを理解し、災害時に中学生は「助けられる立場ではなく、地域を担う大事な一員である」ことを念頭に、自分たちが出来る自助や共助について考えがもてる授業を行った。



▲ 2年 社会科の学習

（3）近隣の高等学校との共同ボランティア活動の実施

瑞浪市の中京高等学校が実施している「“服のチカラ”プロジェクト（世界の難民等に子ども服を届ける活動）」に賛同し、本校で10月に実施。生徒会執行部が全校に呼びかけたところ、期間中には生徒や保護者から予想以上の服が集まり、中京高等学校に届けることができた。



▲ 集まった“服のチカラ”

子供たちに付いた力	・「自分の命は自分で守る」とともに、「助けられる命は助ける」「自分の力を他人の命を守るために使う」など、自助・共助の意識を高めることができた。
効果	・ 地域の中で、中学生への期待がふくらんでいる。 ・ 例年と比較し、交通事故発生件数も少なく生活できている。
今後の方向	・ 地域で貢献できる恵那西中生を目指して、地域とともに活動したり、学んだことを地域で生かしたりする場を設けていく。

17 恵那市立岩邑中学校

学 校 名	恵那市立岩邑中学校 (校長 相原 正文)
活動の種類・単位	防災の日 (9月1日) を全校生徒と地域と連携して取り組んだ
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

「自分で、みんなで、災害に強いまちづくり」の担い手として、中学生として防災を考え、自ら行動できる態度を育成する。＊防災教育を軸として合い言葉:「自分を守り、家族を守り、地域で支え合う」

2 主な活動内容

(1) 命を守る訓練の実施

今から、38年前の1981年12月6日、本校は校舎を焼失している。学校火災も日がたつうちに遠い昔の話となってしまう。しかし、先輩が味わった、火災の大変さ・つらさ・悔しさを風化させることなく、火災の教訓を様々な訓練を通して呼び戻し、二度と岩邑中学校から火災を起こさないように、命を守る訓練を実施している。また、火災だけでなく、地震・不審者・不慮の事故からも自分の身を自分で守れるように年間4回の「命を守る訓練」を実施している。特に、夏休み前には、部活動で中心となる2年生を対象に心肺蘇生・AED使用の訓練を行い、学校・地域を守るリーダーとしての意識を高めた。

(2) 地域と協力した避難訓練と学校での避難所運営訓練

9月1日(日)には、地域・学校と連携して「防災の日」を実施した。近年発生が予測される南海トラフ地震(M9.0)を想定し、中学生として自分たちがどのように行動すべきかを考えさせた。具体的には、防災無線の避難指示を聞いて、地域の避難所に地区ごとに避難した。その上で、学校への2次避難を地区ごとに行った。学校へ避難し、人員点呼が完了した後は、校内防災リーダー(生徒7名の防災士)の主導で学年に分かれて、災害時に生徒が担うであろう活動を実施した。



▲岩村日赤の指導で炊き出し

1年生：通学路・校内のハザードマップ作り

2年生：防災倉庫の確認と避難所運営(炊き出し訓練：岩村日赤の協力)

3年生：避難所開設の校舎使用計画の立案(HUG訓練)

自分たちで、自分たちの命を守るだけでなく、地域の担い手としての意識が高まった。また、地域の代表者(自治会長・振興事務所長・教育委員会)が参観し、来年度、生徒と地域が一体となった活動にしていく事を提案した。

(3) 自主的・自治的な力を育てる生徒会活動

12月11日(水) 東北大震災で復興支援を続ける、高橋伸実さんを講師に迎え、「四つ葉のクローバー」というテーマで被災地復興から感じた人の優しさを講演して頂いた。講演会に参加する中で、自分たちにもできることはないだろうかと考え、「西日本豪雨災害への募金活動」や東日本大震災の復興地へ「メッセージカイト」を作って送ることを生徒会で提案し、全校で作成することができた。



▲高橋さんの講演会の様子

自分たちで今できる事を主体的に考え、行動する力が育ってきた。

子供たちに付いた力	自分たちが防災も含めた地域の担い手であるという考えをもち、自ら考え、行動しようとする力がついた。
効果	学校だけでなく、地域を巻き込んだ防災教育を推進するきっかけとなった。
今後の方向	学校と地域が一体となることで生徒の考える防災計画(避難所開設の計画・中学生の役割等)をもとに、災害時に強いまちづくりをめざしていきたい。

学 校 名	中津川市立蛭川中学校 (校長 小南 達成)
活動の種類・単位	健康安全・奉仕(福祉)を地域と連携し全校で取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

生徒が主役、生徒が主体の学校を目指して

2 主な活動内容

(1) 命を守る訓練

命を守る訓練、シェイクアウト訓練、引き渡し訓練を、いつ発生するかわからない災害に備え、生徒たちが主体的に行動できるようにするために実施した。また、昨年度に引き続き、自転車事故が多い社会情勢に合わせ「加害者にならないために・被害者にならないために」と題して講師を招き、自転車安全教室を行った。

今年度いただいた「岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校活動助成金」を利用し、トランシーバーを購入した。気象警報発表のため引き渡しを行った折には、誰の保護者が迎えにみえたかをトランシーバーで各教室と生徒玄関で対応する職員に伝えることによって、訓練通りスムーズに引き渡しを行うことができた。

地震から火災が発生した想定で行った命を守る訓練では、地震によって放送機器が使えなくなった設定で、トランシーバーによる指示で避難を行った。また、不審者対応訓練の時にはトランシーバーによって不審者情報を共有し、安全な生徒の避難に役立てることができた。



▲ 命を守る訓練

(2) 地域共同・蛭川の伝統文化継承

体育大会で蛭川に伝わる「杵振り踊りとお囃子」「手踊り」を全校で披露した。生徒たちは1学期に地域の伝統文化保存会の方から直接指導を受け、夏休み中には部活動毎に上級生が中心となって練習を重ねた。本番には踊り披露の時間を事前に福祉施設に連絡し、高齢者やデイサービスを利用してみえる方々に参観していただいた。参観者の中には涙を流しながら喜んでいる方もみえた。



▲ 運動会での杵振り踊り

また、1年生の総合的な学習において、踊りに使う傘やわらじを地域指導者に作り方を習いながら制作活動を行った。さらに、地域の歌舞伎にも参加し、公演に参加した。

(3) 高齢者福祉「独居世帯おせち配付」

地域ボランティア活動として、激励の手紙を書き、花・おせちとともに届けた。

子供たちに付いた力	自分たちの命を守るために、静かに素早く行動する習慣が身についた。また、電気が使えなくなったときにどうするかなど、イメージしようとする姿勢が育った。
効果	自分たちの命を守る行動ととるとともに、地域の一員として何ができるのか考えるきっかけとなった。
今後の方向	健康で安全な蛭川を目指して、中学生として特に地域の高齢者との関わりを増やし、緊急時やイベントだけではなく日常的な交流を深めていく。

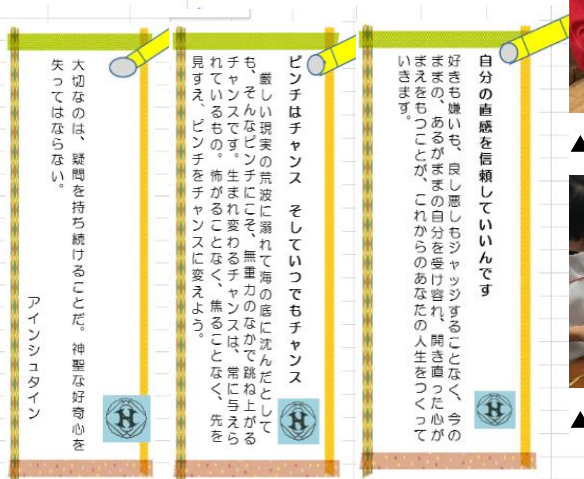
ストレスを知り、うまく付き合っていこう！

ストレスを知り、認識し、言葉で表し、行動し、コントロールできるようになるために取り組みをしている。

- ① こころの支えとなる葉の作製
- ② リフレーミング掲示物を利用して、考え方・捉え方を変える。
- ③ 自分に合った、自分ができる認知・行動のコーピングを質より量で増やす。

① ころの支えとなる葉の作製—

保健委員が主になり、
こころがホッとする言
葉、こころの支えとな
る言葉、偉人たちの名
言から選び、葉を作製
する。



▲ 保健委員会の様子 葉の作

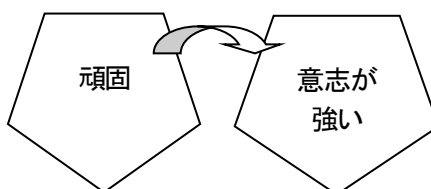


▲ クラス内で葉を配布

自分の好きなところや
欠点をひっくり返せば自分か他人になる
第一 **リフレーミング** 自分と向き合う方法を学ぶ。第一歩
としてしまえんか。

自己中心的
忘れっぽい
内開き者
よく寝る人
気が強い
マイペース
多量
心配性
人付き合い
いい人

経済不安
経済的困窮
教育不安
マイペース
多量
心配性
人付き合い
いい人



今の見方とは違った見方を
する。自分の嫌いなところや、
欠点をひっくり返せば、素敵
な自分になる。

- ・問題を受け入れる
- ・自分を励ます
- ・考え方を変えてみる
- ・楽しい妄想をする



- ・体を動かす
- ・自分を癒す
- ・自然を感じる
- ・〇〇に行く

- 19 -

学 校 名	岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 (校長 乙部理佳代)
活動の種類・単位	健康安全・全校
教育課程上の位置付け	特別活動・その他 (自立活動)

1 活動テーマ

火災や地震等の災害発生時に命を守る行動を進んで行い、安全に避難するための防災教育

2 主な活動内容

(1) 防災教育について

- ・部集会時に防災や避難訓練、青少年赤十字モニター活動等についての話をを行った。また各学級において、児童生徒の実態に合わせ、防災教育 (命を守る行動について、安全な避難の仕方等) を行った。

(2) 命を守る訓練 (年4回 ①5月 ②9月 ③10月 ④12月)

- ①調理室からの出火を想定し、各教室から運動場への避難を行った。また職員による水消火器の消火訓練を実施した。
- ②地震発生時に足を負傷したことを想定し、担架を用いた避難訓練を実施した。実際に高等部生徒が担架に乗り、屋外のスロープから運動場への避難を行った。
- ③隣接する希望が丘こども医療福祉センターとの合同防災訓練を実施した。地震発生から火災の発生を想定し、命を守る行動・各教室から運動場への避難を行った。
- ④震度5弱の地震を想定し、命を守る行動・各教室から体育館への避難を行った。また、避難生活の長期化や保護者への引き継ぎを想定し、二次避難場所への移動の訓練も行った。



▲ 担架を用いた避難訓練

(3) ショート訓練 (年4回/内1回は予告なし)

緊急地震速報受信時の安全行動の確認、徹底を図るために、授業中や休み時間に5分程度の訓練を実施した。

(4) 職員防災研修

夏季休業中に、清流の国ぎふ防災・減災センターより講師を招き、職員防災研修を実施した。地震発生時の動画を見て身の回りの危険個所を想像したり、小グループに分かれて普段使用している教室等の危険個所の確認をしたりした。

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震等について、主体的に考える力 ・能動的に動くことができる力
効果	<p>防災の取組を通して、予告なしの訓練であっても命を守る行動を受け入れられるようになったり、教師の指示を待つのではなく、自分から命を守る行動をとったりする姿が見られるようになった。また高等部生徒より、「今までは地震や火災があったら、誰かが助けに来てくれるまで待つという考えだったが、訓練や講話から、自分がどのように動いたらよいかを考えることができた。適切な避難の仕方を理解できた。」といった発言があった。</p>
今後の方向	<p>今年度実施した防災教育をもとに、来年度以降も様々な災害(地震、火災、水害等)に対する防災教育を行っていく。</p>



ち
か
い

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

2019年度

岐阜県青少年赤十字研究推進モニター校活動事例集

令和2年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938